

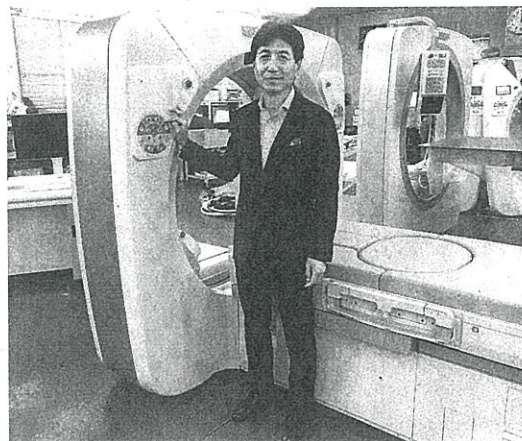
# 山本ビニター 産業向け電波加熱装置

電波加熱装置で大手の山本ビニター(大阪市)は産業向けの同分野で国内シェア5割を握る。電波による加熱はレンジで食べ物を温める仕組みに近い。火や電気を使った一般的な加熱より時間を大幅に短縮できる利点がある。顧客の業種や製品ごとにきめ細かな対応で信頼を積み重ねてきた。

## ミドル企業 きらり

関西で町工場が集まる大阪府八尾市。一角にある山本ビニターの工場には新製品の開発を検討する様々な企業の技術者や幹部が通う。訪問者には山本泰司社長自らが同席し、工場内の製品アクト用スペースに案内する。「実際に色々な条件下で製品を加熱してみないと、どうなるかわからな

# 多分野に対応 きめ細かく ■ 医療機器に力、技術磨く



山本社長は医療分野の強化を進めてきた

いでしょうか」。山本氏はこう語るように、顧客の多くは電波による加熱装置の導入を初めて検討するケースが多い。そして要望も漠然としていることが少なくない。山本氏は「顧客はサンプルさえ持ってきてくれればOK。悩みをじっくり聞いて何カ月も試験を繰り返すこともある」という。電波加熱とは、高周波やマイクロ波を使って対象物の分子を直接振動させて温める手法。電気や火を使った一般的な加熱方法に比べてエネルギー効率に優れ、加熱時間も短縮できる。山本社長いわく、同業で山本ビニターほど幅広い分野向けに産業用の電波加熱装置を手がける企業は世界でも類を見ないという。創業者である実父からのバトンを現在の

《会社概要》	大阪市
▽事業概要	電波加熱装置の製造・販売
▽創業	1953年
▽従業員	140人
▽売上高	48億3000万円
	(2019年1月期)

中小経営

### 事故発生時の対処のポイント

主なポイント
事故発生的事实を迅速に責任者へ連絡
状況を正確に捉える活動
謝罪対応など利害関係者への説明

主な対応
■ 事故内容の定義と社内周知
■ 事実確認と原因特定調査
■ 説明に必要となる事項の準備
■ 社内外に対して広く情報収集
■ 上記の対応を適切に実施するための平時からの手順作成や訓練

(注) SOMPO リスクマネジメント作成

情報漏洩を防ぐ ⑨  
事故発生時の対処は、社内情報統制に配慮しつつ常に状況を正確に捉えて適切に対処しなければいけない。事実確認や原因特定調査はもちろ

マネジメント講座  
情報の紛失、誤送信、サイバー攻撃など情報セキュリティの事故につながる事態を予防することは重要だが、リスクをゼロにすることはできない。そのため万一の備えとして事故発生時の対処について準備しておくことが重要になる。

事故対応への備え  
謝罪対応については、事実関係の報告だけでなく、今まで実施してきた予防策、事故発覚から謝罪までの対応内容、今後の再発防止策や補償などについて説明できるように準備しなければ、顧客への説明責任を果たせない恐れがある。

一連の事故対応では、状況の変化を把握するため、広く情報を収集し続けることが重要だ。平時から事故対応における役割分担や手順を定め、実際にそのとおり動けるかを訓練するといった対応準備も欠かせない。

謝罪対応については、事実関係の報告だけでなく、今まで実施してきた予防策、事故発覚から謝罪までの対応内容、今後の再発防止策や補償などについて説明できるように準備しなければ、顧客への説明責任を果たせない恐れがある。